

令和3年8月23日

前橋市長 山本 龍様

前橋市手をつなぐ育成会  
会長 塩崎 政江

## 要 望 書

### サービスステーション事業充実について

前橋市はこれまでも障害者を大切にされた事業を推進していただき、山本市長様を初め関係の皆様が障害者の生活に温かい理解を示していただいております。大変ありがたく思っております。

しかし、障害者が、親なき後も地域で暮らし続け、住みやすい街にするためには様々な課題があります。市民がみんなで障害者を支え合う事業を推進できるよう、サービスステーション事業の充実について要望いたします。

#### 【1】障害者及びその家族にとって必要不可欠な、サービスステーションの継続と一層の充実

サービスステーションは、専用の施設により、ストレスのない落ち着いた環境が用意されており、職員がマンツーマンで対応できるため、夜間、早朝、休日等に緊急に依頼しても、利用者本人の生活パターンや状況等に応じた対応が可能です。

特に、強度行動障害等があり、強いこだわりやパニックなどで集団生活をするのが困難な方にとっても、利用者本人の特性やその時の精神的な状況に応じた柔軟な対応を取ることが可能です。また送迎も行ってもらえるなど、介護している家族にとっても、安心して預けやすい仕組みとなっています。このようにサービスステーションは、有意義な機能を有した優れた事業であり、日中一時支援事業(日帰りショートステイ)や入所施設の短期入所等では、代替として対応することは困難です。

ただし、実際にはほとんどのサービスステーション事業所が赤字経営をしているという現状の課題もふまえると、この事業が将来的にも継続可能な事業に整備され、一層充実していくことを要望します。

#### 【2】サービスステーションの利用により、介護に追われ疲弊している家族のレスパイトケアの充実と、家から出られる(家族と離れる)体験の推進

重度障害者の家族は、何年間も休む暇なく介護に追われ疲弊している状況が多く見られます。こうした家族が、休養とリフレッシュ(一時的な休息:レスパイト)の時間を持つための手立てとしてサービスステーションは重要な機能を担っています。また、家族が地域の活動や兄弟の学校での活動等に参加する際などにも活用することができ、家族の円滑な地域生活を支えています。このようなことを通じて、家族及び利用者本人が深刻な状況におちいることを予防し、穏やかな暮らしを継続していくための大きな効果も持っています。障害者が家族から離れて生活する経験は、将来の自立につなげるための必須条件であり、こういったことについて、市民が理解し支援する風土を醸成することが重要です。

### **【3】サービスステーション前橋モデル事業の新設**

「地域生活支援拠点」の機能の中で、「緊急時の受け入れ・対応」「体験の機会・場」という2つの機能は、最も重要でありながら、現状としては、安心した運用に多くの課題が残っています。サービスステーションが、親なき後も地域で暮らし続けるための機能として整備を行っている「地域生活支援拠点」の機能を中心的に担う事業所として、その特性を発揮していくことが、理想的な方向と考えて推進していただくことを要望します。

以下、次ページより、現状と課題を示した上で、あらためて要望の趣旨と解決策を提案します。

## 【具体的な内容】

### 1. サービスステーションの現状

- ① 前橋市内 3か所（市民が利用可能な事業所は周辺地域のものも含めて7か所）
- ② 心身障害児（者）の介護を行う保護者が一時的に介護ができない場合、サービスステーションに介護を委託することにより、心身障害児（者）本人及びその家族のより豊かな生活の実現や介護者の負担軽減を図ることを目的としています。  
具体的には、障害のある方のご家族が一時的に介護できない時や、介護者がリフレッシュしたい時、学校・日中活動などが休みの時の余暇支援として、本人をマンツーマンで支援しています。  
家族の緊急時には宿泊を伴う介護も行うなど、24時間365日、地域での安心を支えています。
- ③ 1対1対応であることから介護・支援度の高い重度障害児者へもきめ細かく支援が提供できており、他の障害福祉サービスでは支援困難な方でも、サービスステーションであれば安定でき、利用を楽しみにしている事例もあり、家族の介護による疲弊感を和らげる貴重な社会資源となっています。
- ④ 福祉有償運送サービスを実施して緊急時送迎対応をしている事業所は2か所。

### 2. サービスステーションの課題

- ① 委託事業所における赤字運営の現状  
一時的な介護や緊急時等では宿泊を伴う介護となることから、専用で宿泊等日常生活が可能な場所を確保する必要があります。現在も専用の場所を維持していますが、運営全体が赤字となる中、家賃・光熱水費等の固定費が運営を圧迫している現状です。
- ② 委託事業所における介護技術を持った職員と人件費の確保  
サービスステーションは事業の性質上、不定期のサービス利用が中心であり、かつ緊急時対応を行うためには、サービス利用時と併せて利用がない時間帯にも職員確保が必要となります。しかも、サービス利用者は障害の種別や支援度が多岐に亘っており、支援者には、高い介護技術が必要とされます。そのため、利用が必要になった時点で急遽職員を確保することが難しいため、現在は事業運営母体の別の事業所と兼務する職員を確保して対応しています。  
また、サービス提供時の調整には、本人の障害特性の理解に加えて、家族状況の把握や他の利用者との優先順位の勘案も必要となるため、サービス提供責任者が利用調整業務に割く時間を確保する必要があります。しかし、現状の報酬単価では、人件費としては、支援者が直接サービス提供にかかる部分を賄うのが精一杯で、大切な調整業務等を行うことが困難な状況です。
- ③ レスパイト機能に関する課題  
サービスステーション事業が担う機能のうちレスパイト機能については、受け皿を増やさないと地域のニーズにサービス提供が追い付かない現状があります(週末はす

ぐに予約が埋まってしまい、早期に予約しないと利用できない状況)。

特に、強度行動障害等により様々な配慮が必要な方は、集団の中で受け入れる短期入所などのサービスでは敬遠されがちで、受け皿が非常に乏しい実情があります。

地域生活のためには、法定サービス提供事業所においても 1 対 1 対応による加算を増やすなど、重度の方でも積極的に受入れてもらえるような方策を講じていく必要があります。

#### ④ 障害者が家から出られる（家族と離れる）体験に関する課題

サービスステーションの機能として、レスパイト支援も期待されていますが、実際には障害者本人を置いてリフレッシュすることを躊躇する家族も多く、厳しい現状は改善されていません。

障害者が家族から離れて生活する経験は、将来の自立や、親なき後の不安解消のためにも重要なものであります。また支える家族がこのようなレスパイト支援等を活用することで、無理せず、心身ともに健全な環境を維持することにつながります。

このような観点を、市民が理解し支援する風土を醸成することが望まれます。

### 3. 具体的な要望

#### ① 今後への展望 「サービスステーション前橋モデル事業」の構築に向けて

群馬県のサービスステーション事業は、他の県にも誇れる素晴らしい事業ではありますが、現在の補助要項の下では、利用上の課題や雇用職員の問題など推進しにくい点も多く、将来的にも継続しうる制度への改善が求められる所です。

県は昨年、本事業について、今年度末での市町村への全面移行を打ち出しました。しかし、市町村で実際に運営する具体像等の提示も無く突然打ち出されたこともあり、県民の強い継続要望等を受け、期限の先送りと市町村事業への移行についての具体案について検討を始めたと聞いています。

しかし、その結果を待つのではなく、前橋市としての創意ある独自性を活かした事業として発展・充実させることが望まれます。

実際的には、親なき後も地域で暮らし続けるための機能として整備を行っている「地域生活支援拠点」の機能の中で、最も重要でありながら、現状としては、安心した運用に多くの課題が残る「緊急時の受け入れ・対応」「体験の機会・場」という 2 つの機能については、全国的にも地域格差が大きく、市町村の独自性が顕著に表れている部分です。

前橋においては、すでに優れた社会資源として存在しているサービスステーションを是非とも大いに活用して、この 2 つの機能を中心的に担う事業所として、その特性を発揮していくことが理想的な方向性と考えると、これを「サービスステーション前橋モデル事業」と捉えていくことが、最も望ましいと思われれます。

このことについて、今後しっかりと議論をしていただけるよう要望します。

## ② 委託事業所における赤字運営の改善と介護技術を持った職員と人件費の確保

課題のところで述べた通り、一時的な介護や緊急時等の宿泊を伴う介護のための介護場所を確保するための運営経費の補助の充実をお願いします

また、各事業所の高い介護技術を持つ体制確保のための人件費の確保について、格段の充実をお願いします。

## ③ 地域におけるレスパイト機能の充実のための「受け皿」の充実

レスパイト機能については、地域のニーズにサービス提供が追い付けるよう、「受け皿」を増やすための支援の充実をお願いします。特に、強度行動障害等により個別に特別な配慮が必要な方の地域生活のために、1対1の対応ができる社会資源が拡充されていくような施策をお願いします。

## ④ 介護に追われ疲弊している家族のレスパイトケアの充実と、障害者が家から出られる（家族と離れる）体験の充実

何年間も休む暇なく介護に追われ疲弊している家族が、休養とリフレッシュの時間を確保できるようになることは、家族及び利用者本人が深刻な状況におちいることを予防し、穏やかな暮らしを継続していくための大きな効果も期待できます。

また、障害者が家族から離れて生活する経験は、将来の自立やにつながる重要なものであり、定期的に経験を重ねることで、緊急時の対応について、利用する側も支援する側も安心して行えるようになります。

全ての障害者がサービスステーションを定期的・継続的に利用できるよう、例えば1ヶ月に10時間は無料で利用できる補助など、具体的な仕組み作りをお願いします。

## 4. 具体的提案

◎前提として、現状のサービスステーションの報酬単価については維持。

◎地域生活支援拠点としての機能(緊急時の受け入れ)を担うことを条件とする (※)

(※) 本人及び主たる介護者の緊急時であれば、24時間365日、必ず1名以上の受け入れを行う。また必要時には車両による迎えも行う。

### 提案① 介護場所の確保経費補助

家賃・光熱水費等固定費の一部を補助金として支給して、安定的な運営を維持する。(150万円/年)

### 提案② 緊急時受入れ・調整対応経費補助

緊急時にいつでも対応できるようにするため、人件費にも充てられる経費補助(400万円/年程度)を市町村から委託費として支出する。

提案③ 法定サービス事業所での1対1対応導入

日中一時支援事業（日帰り短期）の中に「個別支援型（1対1対応）」を創設  
短期入所事業の中に「個別支援型（1対1対応）」を創設。

提案④ その他

緊急時については、福祉有償運送としての送迎扱いにせず、利用者を預かった時点からサービス提供時間とする。

障害児者を送迎する場合、車両に乗せた時点から声掛けや見守り等の介護が始まっている。特に緊急時におけるサービスが前提となる場合、本人の興奮状況を想定すると、車両に乗り込むまで、そして移動中においても、かなり経験豊富なスタッフが複数体制で迎えに行かなければ対応できないケースも想定される。とても単純な福祉有償運送サービスの体制で対応できるものではない。そのような高度に専門性の高い業務について、福祉有償運送で対応することは、運転中の時間が介護時間に含まれないことでもあり、報酬においても、サービス内容やリスク管理においても問題がある。その観点から、緊急時の迎えについては、介護活動の一環としてとらえて対応できる仕組みにしていきたい。

※送迎サービスについて運送法上の課題が懸念されるようであれば、市がタクシー会社等と業務委託して、24時間送迎対応できる専用の車両や運転手を確保し、その車両にステーションの支援員が同乗するようなシステムを検討する。

提案⑤ 上記の単価規模だけでなく、小規模のヘルパーステーション等も参入できるような仕組みも検討し、市内に最低でも5カ所以上の緊急時受け入れ先（単独型＝入所施設等併設型でないもの）の確保を目指す。

提案⑥ 利用者負担の軽減

現行のサービスにおいても、前橋市として利用者負担の補助を行っていたところではあるが、それでも宿泊を伴う利用が数日続くとかなりの高額になってしまう。そのことが、日頃から相当に大変な事態以外での利用を控える要因となり、サービスステーションの安定的運営を阻害する一因ともなっている。

緊急事態での利用をスムーズにするためにも、平時から、体験利用を定期的に行い、障害児者本人の理解を深め、支援者との関係性を築いておく事は重要なことである。そのためにも定期的・継続的に利用ができる様、例えば、「1か月あたり10時間利用料無料」といった仕組みを整える。

4. 収支試算書（別紙）

利用時間を3500時間/年として

## (別紙) サービスステーション事業 収支試算書

2.試算書

(単位：万円)

	科目	内訳	金額	摘要
収入	委託費		830	
	利用者負担金		170	
	コーディネーター補助		400	
	介護場所確保補助		150	
	収入合計		1550	
支出	人件費	正職員俸給	600	1.5名分
		準職員給与	260	3名
		賞与	147	3.5か月分
		法定福利費	110	
			1117	
	事業費	消耗品費	30	
		車両費	35	
		水道光熱費	10	
		通信運搬費	5	
		家賃	60	
		修繕費	10	
		保険料	8	
			158	
	事務費	福利厚生費	10	
		通信運搬費	30	
		水道光熱費	5	
		研修費	10	
		業務委託費	100	
		家賃	10	
		車両費	5	
		消耗品費	10	
		退職金積立金	5	
			185	
	支出合計		1460	
収支差額			90	